

**東海北陸自動車道関連  
埋蔵文化財包蔵地分布調査報告書  
—砺波市・福光町間—**

1983年3月  
富山県教育委員会

## 正誤表

\*第3・4図 差しかえる。

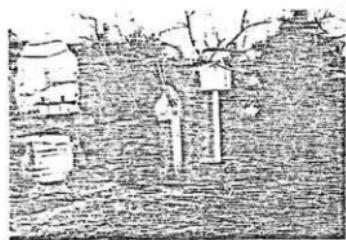


写真1 田尻丸塚（南から）



第3図 福野町田尻丸塚の位置

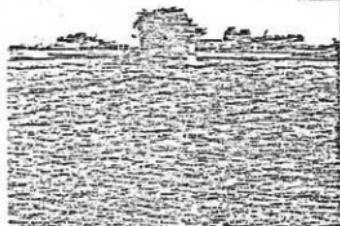


写真2 安泰寺跡（南から）



第4図 福光町安泰寺跡の位置

## 目 次

I 調査の契機	1
II 調査の概要	1
1. 調査の主体と体制	1
2. 調査の対象地と面積	1
3. 調査の方法	1
III 調査の結果	2
1. 調査の結果	2
2. 調査結果の理解と今後の問題	2

## 例 言

1. 本書は、高速自動車国道東海北陸自動車道（砺波・福光間）の計画路線内において実施した埋蔵文化財包蔵地分布調査の報告書である。
2. 調査は、富山県教育委員会が主体となって富山県埋蔵文化財センターが実施した。調査期間は、昭和57年12月8日から12月14日までである。
3. 調査事務局は、富山県埋蔵文化財センターに置き、主任金田 弘、文化財保護主事狩野 隆・神保孝造が調査事務を担当し、所長古岡英明が総括した。
4. 現地調査は、富山県埋蔵文化財センターの下記の職員が担当した。  
主任上野 章・岸本雅敏、文化財保護主事間 清・山本正敏・狩野 隆・池野正男・酒井重洋・宮田進一・久々忠義・橋本正春・松島吉信。
5. 本書の編集・執筆は、上記の調査担当者の協力をえて岸本雅敏が担当した。

## I 調査の契機

日本道路公団による高速道路の建設は、全国に高速道路網をはりめぐらせる構想のもとに、昭和30年代の名神高速道路の建設に始まり、すでに多くの高速道路が完成している。北陸地方でも、一部を除いて北陸自動車道がすでに開通しており、未開通区間の建設工事が日下急ピッチで進められている。

こうした高速道路の建設は、いわば線的な土木工事であるけれども、一定の幅をもって遠距離間を結ぶものであるから、その路線内には必ずといってよいほど埋蔵文化財包蔵地が含まれることになる。これらは、施工区内にあることから必然的に発掘調査の対象とされ、全国各地でこの種の調査が行われている。富山県下でも北陸自動車道の路線内で数多くの遺跡の調査が実施され、今もなお続いている。これらの遺跡の大部分は、実は事前に実行なった道路分布調査によって発見されたものである。このように埋蔵文化財の保護を図るには、その存在を確かめる分布調査がまず出発点となるのである。

ところで、上に述べた北陸自動車道の建設とは別に、東海地方と北陸地方を高速道路で結ぶ計画がある。東海北陸自動車道の建設計画がそれである。計画によれば、名神高速道路の一宮インターチェンジから北陸自動車道の砺波インターチェンジの間、延長 175 km を連結するというもので、昭和53年11月に基本計画が策定されている。建設省ではその策定に先だって計画路線周辺の環境影響調査を行い、文化財についても報告書をまとめている。同書には、福光・砺波間の路線周辺の文化財包蔵地として、福野町の田尻丸塚ほか計 6 遺跡が挙げられている。しかしこれは、その時点でき知られていた「周知の埋蔵文化財包蔵地」を収録したものであって、その実数がわずかそれだけにとどまらないであろうことは、先に述べた北陸自動車道に伴う分布調査の結果からも容易に察することができる。

さて、昭和57年10月、富山県教育委員会は、当該計画路線内の分布調査について日本道路公団から文書による協議を受けた。すなわち、昭和57年10月29日付け新建總第 296 号、「東海北陸自動車道（福光～砺波間）建設に伴う埋蔵文化財包蔵地の分布調査について（協議）」と題する文書を受理した。これは日本道路公団と文化財保護委員会（現文化庁）との間でとり交された埋蔵文化財包蔵地の取扱いに関する覚書（昭和42年締結）にもとづく正式な協議であった。こうした文書手続きとは別に、11月18日には双方の関係者が一同に会し、この問題について協議した。その際、県教育委員会は日本道路公団から建設計画を聴取するとともに、計画路線内の分布調査を同年12月に実施する意向を明らかにした。

## II 調査の概要

### 1. 調査の主体と体制

調査は富山県教育委員会が主体となって、富山県埋蔵文化財センターが実施した。

### 2. 調査の対象地と面積

調査の対象としたのは、日本道路公団から示された東海北陸自動車道の砺波市・福光町間の計画路線内、幅約 150 m、全長約 11km である。その対象地は砺波市・小矢部市・福野町・福光町の 2 市 2 町にまたがる。市町別の調査距離はつぎのとおりである。すなわち、砺波市；0.17km、小矢部市；0.67km、福野町；5.05km、福光町；4.68km、計 10.57 km である。また、調査対象地の総面積は、約 165ha となる。

### 3. 調査の方法

調査は、計画路線内を踏査して地表観察、つまり遺物の表面採集を行い、遺物の散布状況や地形などから遺跡の存在とそのおおよその範囲を推定するという方法をとった。また、周知の埋蔵文化財包蔵地についてもあらためて現地踏査を行い、その位置と遺存状況を確認した。

### III 調査の結果

#### 1. 調査の結果

計画路線内には、周知の埋蔵文化財包蔵地が2箇所含まれていることが確認された。また、今回行なった分布調査によって計19箇所の埋蔵文化財包蔵地があらたに発見された。

##### A. 周知の埋蔵文化財包蔵地

**田尻丸塚** (『富山県遺跡地図』No. 472) 福野町田尻の集落の一画にある (第3図)。箕口光太郎氏宅の東隣りの水田の南端にあり、よく保存されている。径約6m、高さ約2mの円形の「塚」であり、丸塚なる名称もこの形状から生まれたものと思われる。塚の上や周囲には椿やガヤの木が繁茂しているが、そのガヤの木は「つなぎガヤの木」と称され、福野町の天然記念物に指定されている (写真1)。この田尻丸塚は、江戸時代に宮永正運が著わした『稻本越の下草』にも、「田尻村百姓五右エ門という者の居宅の前に古塚アリ、上に五葉の松一本、躑躅・椿等の花木、茂をあらそふ。」と記されている。

**安楽寺跡** (『富山県遺跡地図』No. 533) 福光町梅原にある。放店形態をとる梅原の集落の南東のはずれに一段高くなつた約1町半四方の畠地がある。この地はかつて「寺屋敷」と称されていたことから寺院址とみなされていた。大正時代の末にこの寺屋敷から鎌倉時代の鐘や仏具が出土し、福光町荒木町の正円寺に今も保管されていることは、この推定を裏づけるものである。近くには「ごまん堂」などの地名もあるから、かつてはかなり広い範囲にわたって堂宇が建ちならんでいたようである。なお、城端町賀谷には今も安楽寺という寺があり、寺伝によれば元龜元年(1570年)に戦乱をきて上記の寺屋敷から賀谷に移つたといわれる。これらの諸点からこの地が安楽寺跡と推定されている。現地踏査の際、第4図に示した推定地の西側の農道にそって排水管理設工事がなされていた。掘削部分の断面の土層を観察したところ、数箇所で大小の溝状の落ちこみ (遺構) が認められ、その覆土中や掘削土中から珠洲系陶器の破片が採集された。このことは、上述の推定どおりこの地点にまで遺跡が広がっていることを示している。

##### B. 発見された埋蔵文化財包蔵地

分布調査によって発見された19箇所の埋蔵文化財包蔵地は、Tokai Hokuriku Jidoshado の頭文字を冠して、ひとまずTHJ-01遺跡～THJ-19遺跡と假称しておく。それらの諸特徴を列記すれば、つぎのとおりである。

1. いずれも砺波平野の中央にあり、河岸段丘や自然堤防などの微高地上に多く立地する (第1図)。
2. 前記の田尻丸塚の周辺 (福野町南部) から安楽寺跡の一番 (福光町北部) にかけては遺物の散布が濃密であり、大規模な遺跡が存在することも推定される。
3. 大部分は古代から中世にかかるものである。とくに中世の遺物が多く採集されており、全体のなかでは中世の遺跡の占める割合が大きいと考えられる。その性格は、立地条件からみて主に集落遺跡であろうと推定される。歴史的環境に照らして言えば、福光町・福野町の集落遺跡のなかには、文献史料にみえる石黒荘の莊園村落の跡が含まれていることも多分に考えられる。
4. 繩文時代の遺物が採集されたのは、わずか2遺跡である (THJ-14・19遺跡)。縄文遺跡としてはいずれも小規模なものと推定される。

#### 2. 調査結果の理解と今後の問題

上のべた調査結果を理解するにあたっては、まず以下の点に留意する必要がある。すなわち、今回の調査結果は主として遺物の表面採集から遺跡の存在と範囲を推定するという方法によってえられたものである。したがってそれは、この調査方法のもつ制約に規定されたものである。実際この方法では、調査の対象地はまず水田と畠地に限らざるをえない。またその場合にも、地下に遺跡が埋没している場所であっても必ずしも遺物が地表に現われるとは限ら

らないし、地表の土地利用のされ方や遺跡の埋没の深度によって、その現われ方はかなり異なってくる。例えば、今回の調査対象地の多くはは場整備がすでに完了しているが、それによって遺物が地表に現われることもあるが、また逆に厚く盛土されて土中深く埋没していることもある。それゆえ、この調査方法によって遺跡を発見できる率は、遺跡をとりまく諸条件によって変動的なものとなる。同様のことは遺跡範囲の推定についてもいえる。例えば、別個のものと推定したあい接する二つの遺跡が、発掘調査の結果、連続する一つの遺跡となることもあります。この場合のように実体としての遺跡の広がりが分布調査による推定範囲を上まわることもあるが、逆に下まわることもある。したがって、THJ-14遺跡のような広域遺跡と推定したものは、おそらくその内にいくつかの大小の遺跡と空白部分を含むものと推定されるだろう。

このような分布調査方法のもつ限界を克服し、遺跡の範囲・内容（時期や構造の存在）を明確にしようとするときには、試掘調査という一步進んだ調査方法をとらざるをえない。しかし、試掘調査を実施するにあたっては、記録保存を前提とした予備調査と位置づけるのではなく、前記の「覚書」にいう「事業区に含めるが保存をはかる」ための基礎資料（協議材料）をうることを、まず第一の目的とすべきであろう。機会をえた事前の試掘調査と綿密な協議のなかから、埋蔵文化財の保護と道路建設との円滑な調整の方途が見出されることを期待したい。

	遺跡名	所在地	時代	地目	出土遺物	備考
1	THJ-01	砺波市神吾	古墳～平安	水田	土師器	
2	THJ-02	小矢部市清水	古墳～平安・近世	水田	須恵器・土師器・陶磁器・古鏡	
3	THJ-03	福野町本江	古墳～平安・近世	水田	須恵器・土師器・陶磁器	
4	THJ-04	福野町上津	古墳～平安	水田	土師器	
5	THJ-05	福野町上川崎	古墳～平安	水田	須恵器	
6	THJ-06	福野町上川崎	近世	水田	伊万里	
7	THJ-07	福野町上川崎	近世	水田	土師質土器	
8	THJ-08	福野町晚田	近世	水田	伊万里・磁器	
9	THJ-09	福野町梅ヶ島	中世	水田	珠洲	
10	THJ-10	福野町梅ヶ島	近世	水田	瀬戸・美濃・土師質土器	
11	THJ-11	福野町出尻	古墳～平安	水田	須恵器・刺片?	
12	THJ-12	福野町出尻	古墳～中世	水田	土師器・須恵器・白磁・灰釉陶器・珠洲・土師質土器	出尻丸塚が含まれる。
13	田尻丸塚	福野町田尻	中世か	雑種地	なし	『富山県遺跡地図』番号、No.472 塚の上に町指定の天然記念物、「つなぎガヤの木」あり。
14	THJ-13	福光町梅原	中世	水田	土師質土器	
15	THJ-14	福光町梅原・久戸・宗守	繩文～近世	水田	繩文土器・須恵器・土師器・珠洲・磁器	安楽寺跡が含まれる。広範囲にわたって濃密に遺物が散布する。
16	安楽寺跡	福光町梅原	中世	水田・畠地	土師質土器・伊万里・珠洲	『富山県遺跡地図』番号、No.533
17	THJ-15	福光町鍛冶	中世～近世	水田	土師質土器・伊万里	
18	THJ-16	福光町竹林	中世～近世	水田	伊万里・石臼	
19	THJ-17	福光町竹林	近世	水田	伊万里	
20	THJ-18	福光町大塚	近世	水田	伊万里	
21	THJ-19	福光町大塚	繩文～近世	水田	繩文土器・石器・須恵器・陶磁器	

表1 東海北陸自動車道（砺波・福光間）計画路線内埋蔵文化財包蔵地一覧表



第1図 遺跡位置図 (1 : 50,000)



第2図 遺跡分布図(1) (1 : 20,000)



写真1 田尻丸塚（南から）



第3図 福光町田尻丸塚の位置



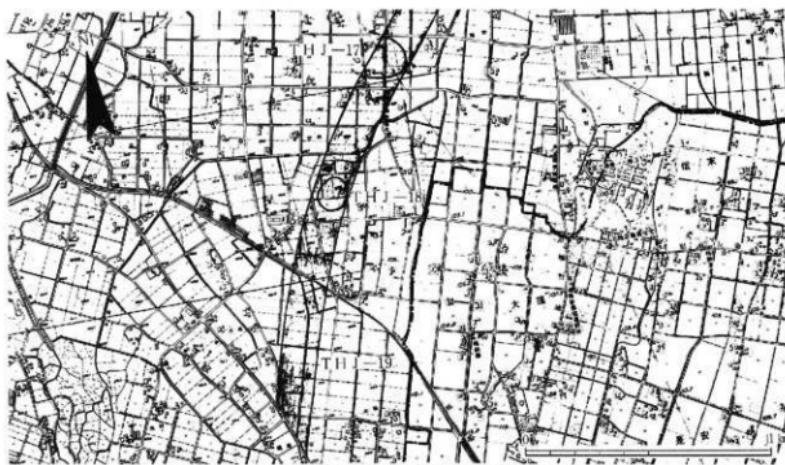
写真2 安楽寺跡（南から）



第4図 福光町安楽寺跡の位置



第3図 遺跡分布図(2) (1 : 20,000)



第4図 遺跡分布図(3) (1 : 20,000)

---

東海北陸自動車道関連  
埋蔵文化財包蔵地分布調査報告書

—砺波市・福光町間—

発行日 昭和 58 年 3 月 31 日

編 集 富山県埋蔵文化財センター

発 行 富山県教育委員会

印 刷 有限会社 日本海印刷

---